



平成 30年 12月 14日

南陽市議会議長 高橋 弘 殿

保守公明クラブ

会派会長 白鳥 雅巳



平成 30年度 会派先進地調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容	No1
調査期日	平成30年11月14日(水)から 16日(金)まで 2泊3日	
調査場所	香川県高松市	
調査目的	高齢者の居場所づくり事業について	
調査概要 (感想)	<p>65歳以上の高齢者が閉じこもりがちとなり、孤立することなど防ぐために世代間交流の場など気軽に集える居場所の開設を進めている。</p> <p>開所数は平成29年度末まで244カ所でさらに300カ所を目標と計画。事業の実施主体は自治会・趣味の会・老人クラブ・NPOなどで活動内容は趣味、カラオケ、介護予防・健康体操などを地域の集会所、NPO等施設で行なっている。これらの事業に行政は各種助成をして応援している。</p> <p>①施設整備助成金(20万円最大) ②運営助成金2~7万円 ③子どもふれあい加算(年30回上限で1回500円)がある。また、他支援として医師会、医療系大学との連携事業がある。</p> <p>①医師会との連携により、医療講座や口腔ケア等の講習を行い、健康増進と知識習得を図る。②医療系大学等との連携により、健康チェックや学生が企画した行事など若者と高齢者との交流を図る。③民間事業者との連携により、タブレットを活用したゲーム感覚の認知症予防講座や、終活についての各種セミナーを実施。事業の効果は、主観的健康維持・改善率94.8%となり、介護保険認定状況は平均的な高齢者との比較で約5分の1となった。目指すところは孤立化・認知症防止や介護予防、生きがいづくり、担い手育成また、介護・医療費用抑制、地域包括ケアシステム構築である。</p> <p>本市においても高齢者の生きがいや居場所づくりに大変参考になった。</p>	
その他		



平成30年 12月

南陽市議会議長 高橋 弘 殿

保守公明クラブ
会派会長 白鳥 雅巳



平成30年度 会派先進地調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容	No2
調査期日	平成30年11月14日(水)から 16日(金)まで 2泊3日	
調査場所	香川県坂出市	
調査目的	さかいで算数・数学オリンピックについて	
調査概要 (感想)	<p>きっかけとねらい。坂出市制施行70周年の記念事業として①算数・数学に対する興味・感心を喚起し学習意欲を高める。②算数・数学に関する思考力・表現力を育てる。③算数・数学を活用する楽しさを感じ自ら発展的に学ぼうとする姿勢をそだてることかねらいで「なぜ、算数・数学」なのか。学習指導要領「生きる力」・・・思考力・表現力・判断力の探求。市教育理念「志をはぐくむ」・・・自分の為、人の為、社会の為に生きる子ども。考え続け、工夫する子ども- 楽しさ、面白さ、学ぶ喜びの体験及び表現する場づくりとするもの。実施要項は小学生5・6年生、中学生1・2・3年生が対象の希望者で実施。問題は市内小中学校の校長や教諭で作成し、知的な好奇心、数学的に面白い、数学的な考え方をういて解くことが必要な問題など。</p> <p>この事業は競いあう事では無く、考える楽しさ、諦めず挑戦する事を目的としている事。保護者の反応として、子どもが参加することを楽しみにしている。これまでになかった新しい発想で作られた問題に毎回驚かされ感心するなどが出た。しかし、継続する課題もある。問題作成の出題範囲や作成のための適切な回数。問題作成に関わる教員の負担、参加者増への対応などがあるとの事。</p> <p>研修で感じた事は、国語などでは答えは複数あるが、算数・数学では正解はひとつしかないと言う事。これをじっくり考える、正解した喜びを知る事で生徒に対する事業の在り方、方向性が分かった気がした。</p>	
その他	本市に於いても児童生徒に対し学ぶ喜びを感じるような教育を願いたい。	